

課題について

■ 社会課題

2030年度には約800万人が認知症となる推計も出ており、高齢者の5人に1人が認知症と想定



■ 本市課題

より多くの住民に、抵抗なく認知症予防の意識を持ってもらい、市の認知症予防事業の参加者増につながる新たな取組が必要

取組概要

(1) 「楽しく」脳トレ体験を行うことによる認知症予防活動への参加意欲向上

最新のMR (MixedReality : 複合現実) 技術を活用した脳トレソフトウェア「リハまる」を使って、ゲーム感覚で「楽しく」脳トレ体験し、認知症予防活動への参加興味を喚起する。

(2) 「リハまる」を利用した認知症予防事業の運用検証

自治体での運用に向け、運用面の課題を抽出し、国立長寿医療研究センターからのアドバイスも踏まえ、対策検討を行う。

MR技術



スマートグラス越しに、現実世界にバーチャルなCGを浮かび上がらせる

VR技術における「VR酔い」がなく、負担が少ない

目指す姿

「認知症不安ゼロのまち おおぶ」の実現を目指す。

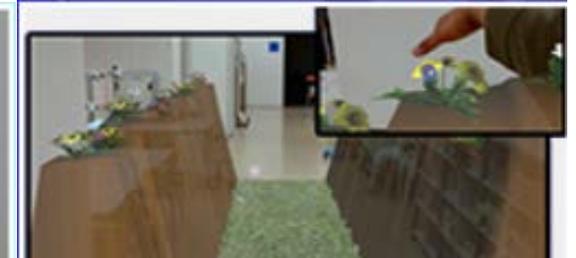
リハまるコンテンツ (例)



数字を1から順に選ぶ



特定のフルーツを選ぶ



花道を歩きながら特定の色の花を選ぶ